

開催年月日 平成22年10月1日(金)
 質問者 民主党・道民連合 北口雄幸
 答弁者 保健福祉部長 高橋幸雄
 医療政策局長 田中宏之
 道立病院室長 多田好宏
 地域医師確保推進室参事 永井孝一
 道立病院室参事 奥山盛

質問内容	答弁内容
<p>一 地域医療の確保について</p> <p>(一) 自治体病院等広域化・連携構想について</p> <p>私からは地域医療の確保についてお伺いをさせていただきます。まず最初に、自治体病院等広域化連携構想についてお伺いをさせていただきます。</p> <p>今回の定例会の中でも、多くの議員の皆さんから地域医療の確保、すなわち医師確保について様々な議論がありました。広域分散型の北海道にとって、地域を守るといことは、地域医療をしっかり確保し、そして安心して住むことができる地域をどう創っていくのか、このことが極めて重要な課題だと思っています。そこで、地域医療の確保についてお伺いをさせていただきます。</p> <p>1 検討状況と課題について</p> <p>道は、平成20年、自治体病院等広域化・連携構想を策定し、地域センター病院を中核としながら、自治体病院の再編等を目指し、地域の検討会を立ち上げ、広域化連携構想を議論し、広域化を進めるということで議論を進めてきたと承知しておりますが、なかなか広域化の議論は進んでいないというのが私の認識でございます。</p> <p>そこで、地域における広域化の検討状況、あるいは課題などについてお伺いをいたします。</p> <p>2 広域化の推進について</p> <p>地域の自治体病院につきましては、この広域化連携構想に基づいて、やはり、いかに医師を確保できるのか、医師確保について期待をしているところであります。残念ながら、今の状況の中で、地域の自</p>	<p>【地域医師確保推進室永井参事】</p> <p>広域化・連携の取組状況などについてでございますが、道におきましては、医師不足が深刻で医療機関の経営環境が厳しい中、地域医療の確保と病院経営の健全化を図るため、平成20年1月に「自治体病院等広域化・連携構想」を策定したところであり、この構想を基に、現在、26の地域に設置しております「検討会議」におきまして市町村や医療機関、関係団体などにより、広域化・連携の協議を進めているところでございます。</p> <p>これまでに、南渡島や中空知など5地域において、中核的病院を中心とした診療連携や医師派遣、休日・夜間の救急医療体制などについて一定の方向性を取りまとめたところでございます。</p> <p>現在、多くの検討会議におきましては、地域医療を担う医師はもとより中核的病院における専門医や指導医の確保対策、地域の救急医療体制の維持とその費用負担のあり方、あるいは、脳卒中や心筋梗塞などの疾病ごとに急性期、回復期、在宅医療を担う医療機関の連携体制をどのように構築するか、といったことなどが課題となっており、こうした課題の解決に向けまして、鋭意、関係者間で協議を進めているところでございます。</p> <p>【医療政策局長】</p> <p>広域化・連携に向けた今後の取組についてであります。自治体病院等の経営環境が依然として厳しい中、地域におきましては、限られた医療資源を有効に活用する上で、市町村の枠を超えた広域的な連</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>治体病院というのは、本当に医師確保について大変苦勞をしております。大学病院から派遣をされているわけでありませけれども、結局大学病院についても、ご承知のとおり医師を派遣できないという、そんな状況の中で、正直、自治体病院にも手詰まり感があり、ため息さえ漏れているのが実態であります。</p> <p>そこで、私としては今後もしっかりと広域化連携構想を進めて、やはり地域の中で、どういう位置づけの中で病院経営し、地域医療を守るのかという方向性をしっかり定める必要があると思うわけですが、道として、この連携構想をどのように進めようとしているのかお伺いをいたします。</p> <p>ぜひとも、地域医療の連携については、よろしくお願いをしたいと思います。</p> <p>そこで、地域医療のいわゆる広域化の中で、道立紋別病院について、次に議論させていただきたいと思っております。</p> <p>(二) 道立紋別病院の移管について</p> <p>1 道立紋別病院の移管における覚書の内容等について</p> <p>地域医療のいわゆる広域化の中で、道立紋別病院について、次、議論をさせていただきたいと思っております。</p> <p>西紋別地域の5市町村と道は、先日、道立紋別病院の移管に関する覚書を交わしたというふうに承知をしておりますが、この覚書の内容、合意の内容については具体的にどのような状況で交わされたのかお伺いをいたします。</p> <p>2 医師確保における道の役割について</p> <p>この6項目の覚書、そして具体的には現在の財産を無償でお渡しをして、そして総額98億円の財政支援をし、当面14名の医者については道が責任をもってその派遣をする、対応するというそういう中身だというふうに思いますけれども、現在の紋別病院の医師数が11名ということですね。ですから14名ということになれば残り3名は何としても医師確保して西紋地区の新しい病院に引き継いでいただ</p>	<p>携が求められており、今後とも、広域化連携構想の推進を図ることが必要と考えているところでございます。</p> <p>このようなことから、現在、各地域に設置している検討会議におきまして、広域化・連携に向けて、様々な検討がなされているところでございます。</p> <p>道といたしましては、今年度から、新たに、地域医療再生基金や国の補助制度を活用し、中核的病院における医師の医療技術の向上を図るため、医育大学から指導医を派遣するシステムの構築や医療機関同士の連携を促進するための遠隔医療システム、さらには、電子カルテシステムを共有するITネットワーク化の推進を図るとともに、患者の受療動向や地域の医療機能を把握するため、レセプト情報を分析する事業などに取り組んでいるところでございます。</p> <p>今後とも、地域の検討会議におきまして、医療課題に応じた協議が促進されるよう情報提供や助言に努めるとともに、医療機関相互の機能分担と連携が一層推進するよう積極的に対応してまいりたいと考えております。</p> <p>【道立病院室参事】</p> <p>覚書の内容等についてでございますが、道立紋別病院につきましては、昨年4月から、西紋別地域5市町村と移管に向けて協議を重ね、この9月27日に財産の無償譲渡、施設整備費・運営費等の支援、医師確保、移管時期などの6項目の覚書の締結を行ったところでございます。</p> <p>具体的には、道立紋別病院の財産については無償譲渡とすること、施設整備費、運営費等の支援については総額98億円とすること、医師確保については、常勤医師14名の確保を道が責任を持って対応することのほか、道職員の派遣や移管時期の項目となっております。</p> <p>【道立病院室長】</p> <p>医師確保についてでございますが、今ほど参事からお答えいたしましたとおり、覚書におきまして常勤医師14名の確保につきましては、道が責任をもって対応することとしたところでございます。</p> <p>常勤医師を含めまして極めて厳しい医師確保の中で、西紋別地域といっしょになってですね、その確保に努めることを双方で確認しております。</p> <p>今後とも地域におきまして必要な医療が安定的に</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>くということだというふうに思うんですけども、やはり、一部新しい病院の構想の中では、今までの紋別病院のピーク時の人数プラスアルファ、つまり26名ほどのやっぱり医師が将来的には欲しいという、そういう意向もあるようでありますから、やはりその14名ということでありましてけれども、この14名についても移管時までにはぜひともそろえて欲しいというふうに思いますし、それを越える部分についてもですねやはり積極的に道が関わって、もう道立病院で無くなったからいいんだということではなくて、積極的に医師確保に私は努めるべきだというふうに思うんですが、見解をお伺いいたします。</p> <p>3 病院スタッフの確保に関する考え方について ぜひともですね、西紋地区の皆さんといっしょに、しっかり対応をお願いしたいというふうに思うわけでありましてけれども、併せて、病院を運営するに当たっては、医者だけでは病院というのは運営できないわけでありまして。 当然、医者と同時にですね、医療スタッフとりわけ看護師確保、これも重要な課題だというふうに思っています。道立病院には現在62名の看護師がいるというふうにお聞きしておりますけれども、移管後、これらのスタッフの確保に対する考え方についてお伺いをいたします。</p> <p>4 西紋地区が目指す移管後の紋別病院の方向性などについて 今の答弁の中では、派遣職員それと割愛ということで再就職という形でその新病院に移られる方、あるいはそれでも足りない場合については、道職員の中から派遣をするよということでありましてけれども、この中で正直、確認書の中では地方自治法に基づき原則2年間の職員派遣というふうに言われています。 今の様々な市町村との人事交流などは2年間という形でやられているから、この2年間ということにこだわっているんだろうというふうに思いますけれども、やはり私としては現地の病院がスムーズに運営する、そしてしっかりと確保体制ができる、そこまでやっぱり支援をしていく必要があると思いますし、併せて、現在の職員についてもしっかり状況を話し合っ、新しい病院へ移る、あるいは移っていただく努力もして欲しいですし、新規採用などに対する支援もしっかりしていただきたい、このように思います。 そして、次に移管後の紋別病院の方向性でありますけれども、現在の道立紋別病院は地域センター病院の指定を受け、地域の2次医療を守る病院としての機能を有しております。 お聞きしたところによると移管に伴って、その地域センター病院の指定というのは一回チャラになっ</p>	<p>提供できるようしっかりと取組んで参りたいと考えております。</p> <p>【道立病院室長】 病院スタッフの確保についてでございますが、この度の紋別病院の移管にあたり、地域からは、病院運営に支障がないよう職員派遣等の支援が求められておりますので、今後、現紋別病院を中心に関係職員の意向を十分踏まえた上で、地方自治法に基づく職員派遣や道を退職し引き続き西紋別地域が運営する病院に採用されますいわゆる割愛職員につきましては、任用条件などにつきまして、地域と具体的に協議を行うなど、今後の病院運営に大きな支障を生じることのないよう道としても、最大限協力してまいります。</p> <p>【道立病院室参事】 移管後の病院の方向性などについてでございますが、移管後の病院におきましては、これまでの地域センター病院としての機能でございます二次医療、二次救急を行い得る体制や、分娩が可能な体制を目標としているところでございます。 このほか、他の医療機関との機能分担や連携を推進するため、医療機器の共同利用や、地域の医師等を対象とした研修会の開催などに加えまして、近隣の国保病院等への診療支援などについても検討していると承知しているところでございます。</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>て、そして再度新しい病院がそれを求めるかどうか、あるいはその手続きというのが必要になってくるというふうにお聞きをしておりますが、西紋別地域のこの新しい病院が今後どのような方向性で病院運営、そして地域の医療を守ろうとしているのか、その方向性についてお伺いをいたします。</p> <p>5 移管後の紋別病院における道のかかわりについて</p> <p>新しい病院は2次医療そして2次救急そして分娩が可能な体制を目標にしているということでありませうけれども、これについても大変ハードルが高いというふうに思っております。</p> <p>最後の質問になるわけでありませうけれども、この今回交わした覚書の中では、先ほど触れたようにこの病院への財政支援として総額98億円を交付するということでもあります。そして、この具体的な、この覚書を補佐する確認書の中では、その財政支援金を基金に積み立てて、その基金の活用にあたっては、一つに移管に伴う運営に要する経費。二つめには移管後の新病院及び旧病院に関連する施設・設備の整備費。三つ目に旧病院及び旧病院に関連する施設の解体撤去費。これらに活用できるというふうにご確認書の中で謳われているわけでもあります。</p> <p>先日、21年度の道内市町村における決算の概要の速報値というのが公表されました。この中でも連結決算の資金不足のほとんどが病院会計の赤字が原因であるということが、この中でも明らかになっています。病院会計の健全化が自治体の健全運営に直結するという中身であります。</p> <p>今回の西紋別地域の病院は、一部事務組合で運営される訳でありますから、直接、その分が全て一つの自治体に関連する、連結するというものではないということは承知はしておりますけれども、大きな、今後の自治体運営にも影響があるというふうに思っております。そこで最後の質問をお伺いいたしますけれども、紋別病院が移管され、西紋地区の一部事務組合で運営されるこの新しい病院でありますけれども、新築の病院の規模やその後の運営など、あるいはその新しい病院との紋別病院とのかかわりについての、道の見解をお伺いをいたします。</p> <p>ただ今、部長から移管後における道の関わりについて、しっかりサポートしていきたいという、そういう答弁がありました。</p> <p>しかし、具体的な新病院の規模などについてはお話しされなかったわけでもあります。</p> <p>病院の職員からのお話によると、この覚書の前段、9月の24日には道立紋別病院の院長や事務長が職員向けに説明会を開いたというふうにお聞きしております。</p>	<p>【保健福祉部長】</p> <p>道のかかわりについてでございますが、道立紋別病院につきましては、これまでの地元5市町村との協議の結果、先ほど参事から申し上げましたように、地元に移管することで合意を得、覚書の締結に至ったところでございます。</p> <p>このため、道といたしましては、地元と約束した財政支援策などの着実な実行はもとより、地域にとって必要な医療が自立して安定的に提供できますよう常勤医師の確保をはじめ、道職員の派遣など今後ともしっかりサポートしてまいりたいというふうにご考えております。</p> <p>いずれにいたしましても、道の財政支援策は今後5年間程度を考慮しており、また、地元においても新しい病院整備など引き続き、道及び地元自治体が一体となって対応していかねばならないというふうにご考えております。</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>その説明会の中では、その新しい病院、新築する病院については、病床数については150床、そして50床の病棟3つ。医師数は26名との方向性を職員に話したというふうに聞いております。</p> <p>この病床数などについては、移管の時の、道と西紋地区の話し合いの中では隔たりがあったというふうに聞いておりますし、この医師確保と合わせ、新病院の運営については、その病院経営のノウハウというのが極めて私は必要になってくるというふうに思っています。</p> <p>道としても、移管をしたからそれでいいんだ。地域に任せたんだ。ということではなくて、しっかりそれ以降も支える体制を作っていたきたい、このように思います。</p> <p>また、中核病院である、遠軽厚生病院との連携というのが不可欠であります。ぜひとも地域連携構想をしっかりとやっていただくようお願いをして、私の質問を終わります。ありがとうございました。</p>	